

杉本委員提出資料

- リーフレット
あしながレインボーハウス
小中学生遺児の「心のケアプログラム」

- リーフレット
病気遺児・災害遺児・自死遺児のためのあしなが育英会の育英制度について

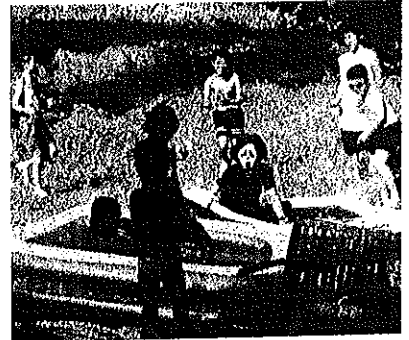
- 本
「自殺で家族を亡くして 私たち遺族の物語」
(全国自死遺族総合支援センター 編)
※会議構成員のみに配布

第6回自殺対策推進会議

あしながレインボーハウス

*このチラシは個人配布用です。恐縮ですが、コピーして弟妹のいる遺児に配布していただくと助かります

小中学生遺児の「心のケアプログラム」



参加者募集

- ・親と死別した子ども（病気、災害、自殺などの遺児）の心のケアをしています
- ・子どもにとって親を亡くすことは大きな衝撃で、人に伝えることが難しいです
- ・死別の悲しみの子どもへの影響は親が気づかないことも多くあります
- ・プログラムでは「遊び」や「おしゃべり」をとおして、胸のうちを自然に表現できます
- ・死別の悲しみと向き合うことは心と体の健康や成長に大切です
- ・阪神大震災遺児を神戸レインボーハウスで支えてきた 13年間のノウハウを全国の遺児へ

全国小中学生遺児のつどい

日時：2泊3日 夏休み・春休みのほか3連休を利用して開催（1泊2日の場合もあります）

対象：全国の病気・災害・事故・自死遺児

*訓練を受けた心のケアボランティア「ファシリテーター」が寄り添います。また、併設の学生寮「あしなが心塾」の遺児大学生がお兄さんお姉さん役として協力します

費用：食事代、宿泊代は不要です。交通費は自宅からレインボーハウスまでの実費の片道分をご負担下さい（詳細はお問い合わせ下さい）

*保護者（お父さん、お母さん）の交流の場もあります

◆首都圏の小・中学生遺児に、日帰りの

プログラムも実施しています



プログラムの内容

豊かな自然に囲まれたレインボーハウスでのキャンプや、竹細工などの体験プログラムをとおし、子どもたちは安全、安心できる場

所と時間の中で友だちになっていきます。

「わかちあいの時間」、「自分や家族を考える時間」など心のケアプログラムでは年代別のグループに分かれます。低学年は遊び、高学年はおしゃべりなどをとおして、胸のうちを表現します。

思い切り暴れて発散したり、落ち着いて悩みをうちあけることができるようにプログラム・施設の両面で工夫がされています。（裏面に参加者の声と予定表）

申込みはお問い合わせセンター

あしなが育英会

あしながレインボーハウス

〒191-0033 東京都日野市百草 892-1
TEL 042-594-2418 FAX 042-594-7088
Eメール：rainbow@ashinaga.org
公式ブログ：http://nijinoie.exblog.jp



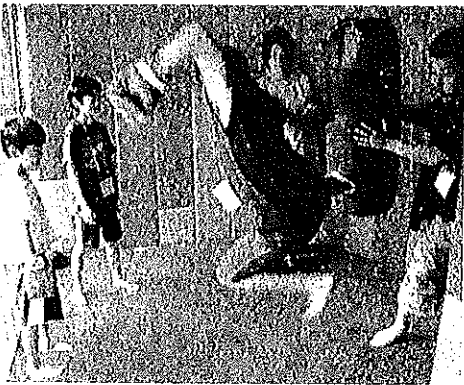
話せてスッキリした/ どんどん変身する自分が楽しい

参加した子供の声

☆ 最初はきんちょうしてたけど、いろいろな人たちの話を聞いて、ファシリテーターのみんなとお風呂にはいたり、テントを建てたり水で遊んだり、遠い県からきたいろんな友達にあたり、2泊3日しかなかったけど、つどいに来て今まで話せなかったことも話せてスッキリできました。(小5女子)

☆ 学校のともだちには「お父さんが死んだ」ということを言えないで、つどいの人には言えて心がおちついた。お父さんが亡くなっている友達が出来てよかった。また会いたいです。(小4女子)

☆ さびしさやつらさを共感できる仲間がいて、がまんしなくても声にして言っているんだと思った。出会いの中で自分自身がどんどん変身していく姿に楽しさを感じた。(中2男子)



☆ 進路に迷ってたけど、とにかく人のために役にたつ仕事をしたいと思います。受験勉強がんばります。(中3男子)

☆ 全国のみんなと友達になれました。大学生のみなさんもすごく話しやすかった。最初は不安だったけどいろんな活動をしているうちに「ずっとレインボーハウスに残っていたいな」と思うぐらい楽しかったです。つぎのつどいも参加してみんなと活動してみたいです。(中2女子)

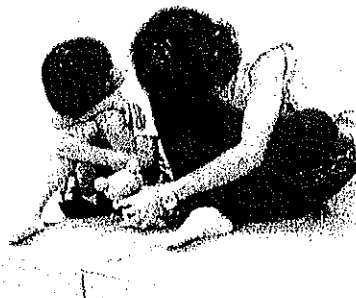
保護者の声

☆ 色紙(つどいで同じ班の仲間と書き合った)と写真を並べ机に飾り元気をもらっているようです。私に対する態度が変わりました。いろいろと話してくれるようになりました。私も今まで長い間ありとあらゆることを黙ってただ処理してきましたが、これからは長女と話して行けるのかなと思いました。また5歳の娘も小さいなりにいろいろ考えていること、周りも見てずっと父親の死を覚えていること、幼くても心に痛みを抱えていてこれから長い時間をかけて心のケアをする必要があることが理解できてよかったです。(付添いで参加の母)

☆ 貴重な体験をさせていただきました。「かわいい子

親子で話していけそう/ 心の底から笑える日が……

には旅をさせよ」と言うとおりに、たくさん物事に気づかされて帰ってきました。勇気を持てたこと、やれば出来るんだということも学んだようです。何より自分の家族が見えた感じでした。(母)



☆ 夫を亡くして5年、母子ともにまだまだ心の苦しさが残り子供の心因的な症状に困っていたときに、つどいのお知らせをいただき救われた思いでした。ここには私たちのことを受け止めてくださる方々がいると実感しました。また同じような思いですごされている家族がたくさんいらっしゃることも実感しました。ここでの思い出が明日からの元気の元になる支えになりそうです。そして心の底から笑える日が来そうな気がしています。(付添いで参加の母)

平成 20 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	3 日 祝 4 日 祝 5 日 祝	7 土 ワンデイ	5 土 ワンデイ 19 土 20 日 21 祝	24 日 25 月 26 火 又は 18、19、20	6 土 ワンデイ 13 土 14 日 15 祝
	全国のつどい		全国のつどい	全国のつどい	全国のつどい
10 月	11 月	12 月	21 年 1 月	2 月	3 月
4 土 ワンデイ 11 土 12 日 13 祝	1 土 2 日 3 祝 8 土 ワンデイ	6 土 ワンデイ 20 土 21 日 22 月	10 土 11 日 12 祝 17 土 ワンデイ	6 土 ワンデイ	7 土 ワンデイ 20 祝 21 土 22 日
	全国のつどい	全国のつどい	全国のつどい		全国のつどい

病気遺児・災害遺児・自死遺児のための
あしなが育英会の育英制度について

1. 事業の目的

本会は、広く社会からのフィランソロピー（やさしい人間愛）精神に基づく支援によって、保護者等が病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡したり、またはそれらが原因で著しい後遺障害のため働けなくなった家庭の子供達（以下、「遺児」という）に奨学金を貸与して進学援助を行うと共に遺児への教育指導と心のケアを行い、もって「暖かい心」「広い視野」「行動力」「国際性」を兼ね備え人類社会に貢献するボランティア精神に富んだ人材を育成することを目的としています。

2. 設立のいきさつ

本会の育英制度（奨学事業、教育指導事業、心のケア事業等）は、同じ境遇の遺児たちの街頭募金などの“汗”と、市民のあたたかい“心”によって発足しました。

1984（昭和59）年、街頭募金やあしながさん（定期的継続的に一定額を寄付してくださる方）の支援によって進学できた交通遺児たちは、「恩返し運動」で災害遺児育英運動を開始し、88（昭和63）年から「災害遺児の高校進学をすすめる会」（武田豊会長）による奨学金制度を発足させました。

さらに、この奨学金で進学できた災害遺児が中心となり、病気遺児たちの奨学金制度づくりに取り組み、92（平成4）年4月に「病気遺児の高校進学を支援する会」による奨学金制度が発足しました。この二つの会の共通の目的が、親を亡くした子供たちの育英制度であるため、93（平成5）年4月、両会は合併し新しく「あしなが育英会」（玉井義臣会長）としてスタートしました。これによりすべての遺児（交通遺児は、財団法人交通遺児育英会を利用）の育英制度が整うこととなりました。

3. 実績

「災害遺児の高校進学をすすめる会」の奨学金制度は88（昭和63）年4月から発足しているため、95（平成7）年1月の阪神大震災特例措置による奨学生の採用と合わせて、この20年間に24,349人に累計230億3253万5千円の奨学金を貸与しました。また、この奨学金で高等学校、大学、専修・各種学校、大学院を卒業したものは17,981人です（08年3月31日現在）。

08（平成20）年度は、新規採用予定者を含めて、高等学校（高等専門学校）生4,584人、大学生1,354人、専修・各種学校生187人、大学院生16人の計6,141人に23億1,717万円を貸与する見込みです。

奨学金貸与の他に、神戸と東京の「レインボーハウス（虹の家）」では遺児の幼児・小中学生に対して、「奨学生のつどい」では、高校生、大学生、専門学校生に対しての心のケア（癒し）事業に引き続き取り組みます。また、東京都日野市と兵庫県神戸市に開設している本会学生寮「心塾」（朝夕食付きで寮費月1万円）によって、生活保護家庭の遺児でも大学進学できるよう支援します。

4. 奨学生の種類と貸与額ならびに募集人数＝2008（平成20）年度

奨学生の種類		貸与月額	募集人数	
高等学校奨学生 （高等専門学校も含む）	国公立	25,000円	予約	1,300人
	私立	30,000円	在学	(全学年) 450人
大学奨学生 （短期大学も含む）	一般	40,000円	予約	350人
	特別	50,000円	在学	(全年生) 130人
専修・各種学校奨学生	一律	40,000円	在学	(1・2年生) 70人
大学院奨学生	一律	80,000円	在学	(1年生) 若干名

※私立高校入学一時金30万円…高校奨学生予約採用者対象に約60人に貸与

※私立大学入学一時金40万円…大学奨学生予約採用者対象に約30人に貸与

5. 奨学生の資格・条件

- (1) 高等学校奨学生は現に高等学校または高等専門学校に在学する生徒で次の条件のいずれにも該当するもの。
 - i 子供が20歳未満のときに、その保護者等が病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡したり、またはそれらが原因で著しい後遺障害を負った。
 - ii 家庭の生活事情が苦しく教育費に困っている。
 - (2) 大学奨学生は前記(1)の i・iiのいずれにも該当し、大学または短期大学に在学する優秀な学生であること。
 - (3) 専修学校および各種学校奨学生は、本会の高等学校奨学生から引き続き修業年限2年以上の専修学校専門課程または各種学校に在学する優秀な生徒であること。
- ※ 著しい後遺障害とは、次の障害認定を受けている場合をいいます。
- イ、国民年金法による障害等級第2級以上の認定を受けている場合。
 - ロ、身体障害者福祉法、厚生年金保険法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による第3級以上の障害認定を受けている場合。
 - ハ、労働者災害補償保険法等に基づく第3級以上の障害認定を受けている場合。
- ※ 保護者等が死亡又は後遺障害者になったときの子の年齢が20歳以上の場合は奨学生の対象にはなりません。

6. 奨学金の返還

奨学金の貸与が終了して6か月経過してから、貸与された奨学金を返還していただきます。返還は20年以内で、年賦（12月）・半年賦（6月と12月）・月賦（毎月）のいずれかの方法で無利子で返還していただきます。なお、入学一時金の返還も無利子で奨学金返還と同時にさせていただきます。

7. 奨学生のつどい

- (1) 高校奨学生のつどい
高校奨学生が夏休みに全国各地区ごとに集まって、ゲームや野外活動、心のケアプログラム「自分史語り」などを通して心から話せる友達づくりをし、お互いの友情を深め、励ましあってよりよい人生を歩むことを目的としています。
 - (2) 大学奨学生、専修・各種学校奨学生のつどい
全国の大学および専修・各種学校奨学生の1年生が夏休みに山梨県の山中湖畔に集まって、野外活動や講演、「自分史語り」などのプログラムを通して、よりよい学生生活や人生について考え取り組んでいくことを目的としています。
- ※ 奨学生のつどいは本会が最も力を入れている行事で、奨学生は特別な事情がない限り全員出席することになっています。なお、つどいには本会の奨学生でなくても、また病気・災害・自死・震災遺児以外の遺児であっても希望すれば参加することができます。

8. 機関紙「NEWあしながファミリー」

本会の活動状況や連絡事項、先輩の社会体験、お母さん方の様子、奨学生が学校や家庭で頑張っている状況などを満載した、全国の奨学生・保護者とご支援者と本会を結ぶ「心の新聞」です。2か月ごとに発行し、奨学生やあしながさん、関係機関にお届けしています。

9. 神戸レインボーハウスとあしながレインボーハウス

神戸レインボーハウスは、阪神大震災で生まれた573人の震災遺児（本会のローラー調査で把握）とその家族の心を癒す日本で初めての設備です。米国に200か所ある遺児の癒しの家の先駆者・ダギーセンターと業務提携し、癒しのスキルを教わりつつ、遺児救済に携わってきた役職員のもつ40年余の経験と合わせ取り組んでいます。神戸の体験を生かし、07（平成19）年から東京のあしながレインボーハウスでも遺児の心のケア活動を開始しました。

10. あしなが心塾と虹の心塾

あしなが育英会には、東京都日野市百草の「あしなが心塾」と兵庫県神戸市東灘区の「虹の心塾」の2つの学生寮があります。塾費は、家具・寝具等完備で光熱費なども含め朝夕の2食付きで月1万円です。

塾生たちが将来、厳しい格差社会を生き抜き「世のため人のため」に貢献する人材に育つようにとの期待を込め、塾には、挨拶・礼儀・規律を重んじるルールや、「読み・書き・スピーチ」など実力を養成する独自のカリキュラムがあります。収容人員は「あしなが心塾」200人、「虹の心塾」50人です。